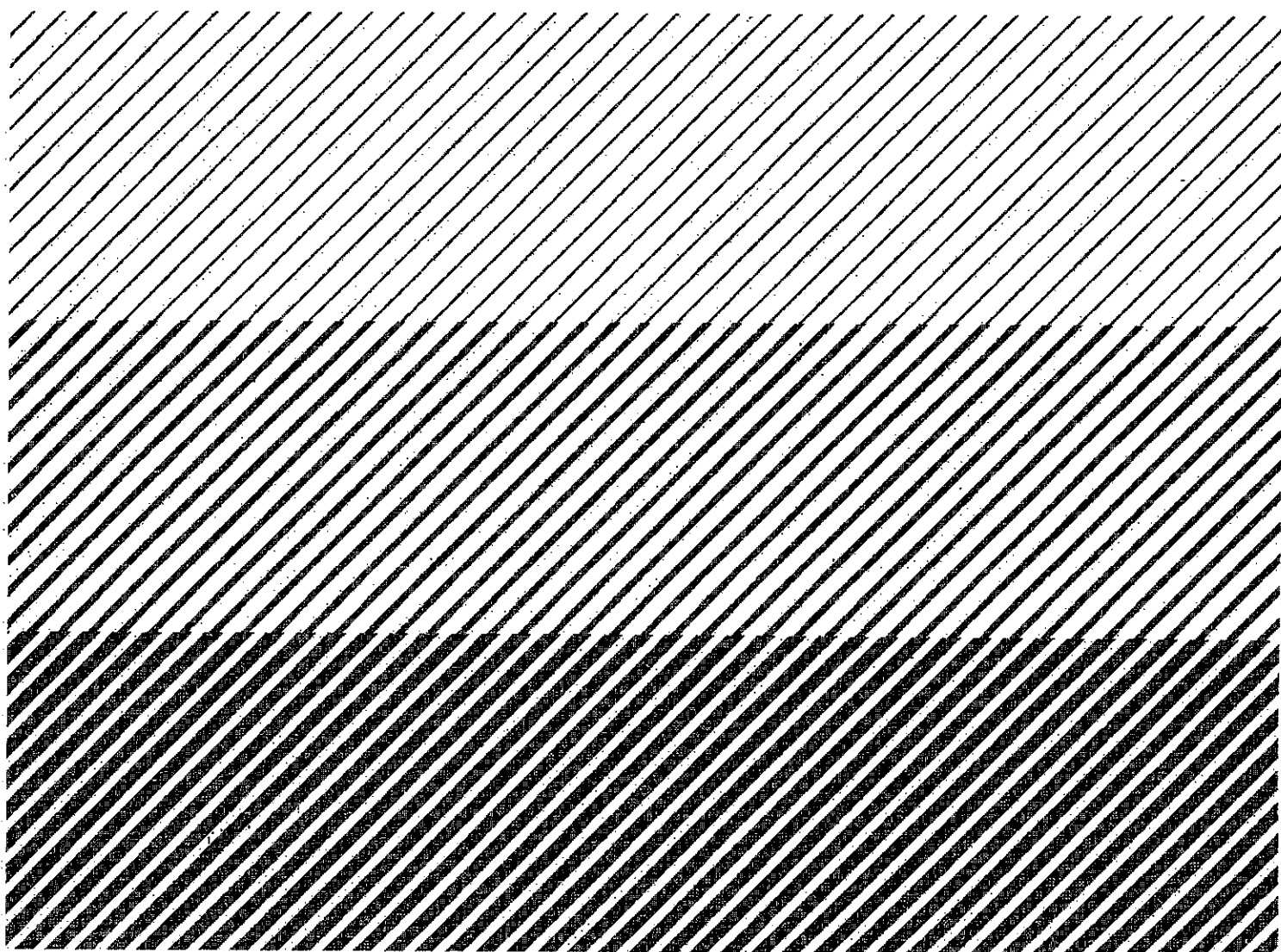


KAWAI

DIGITAL PIANO
PW149

取扱説明書



このたびはカワイ電子ピアノをお求めいただきましてありがとうございました。

カワイ電子ピアノは、最新のエレクトロニクス技術と、カワイが長年に渡って培った^{つちか}楽器作りのノウハウから生まれた画期的な鍵盤楽器です。

自然なピアノタッチの追及、幅広いダイナミックレンジ、鍵盤を弾く強さにより、音色、音量を幅広く変化させるタッチ・レスポンス機能などを装備し、幅広い音楽ジャンルにおいて、本格的な演奏を楽しむことができます。

また、電子楽器の統一規格であるMIDI機能も装備しており、MIDI端子の付いた他の楽器とのアンサンブル等、バラエティーに富んだ演奏にも対応できるようになっています。

本機の演奏にあたりましては、この取扱説明書をよくお読みください。また、お読みになった後もこの取扱説明書を保管し、わからないことが出てきたときなどにご利用いただければ幸いです。

ご 使 用 上 の 注 意

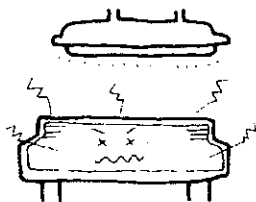
● 電源について

電源は必ず家庭用100Vのコンセントをご使用ください。誤って100V以上の電源を使用しますと大変危険ですので、よくお確かめください。



● 雑音について

モーターやネオンサイン、蛍光灯などが近くにありますが雑音の原因となりますので、本体の設置位置を変えてください。



● 電源プラグ、コードの取り扱い

電源プラグをぬれた手で触ったりすると感電する恐れがありますので、ご注意ください。また、踏みつけたり、足でひっかけたりすると断線やショートの原因となりますのでご注意ください。



● ピボット式キーカバーの取り扱い

ピボット式キーカバーの上に重いものを乗せたり、強い力を加えないでください。また、ピボット式キーカバーの開閉は、両手を添えて静かに行ってください。



● 故障などの注意

内部を開けて部品を取り外したり、改造したりすることは大変危険ですので絶対におやめください。故障したと思われるときは、お求めの販売店、もしくはお近くのカワイまでご連絡ください。



● 使用後のご注意

使用された後は、必ず電源を切ってください。電源を入れたままにしておくとおわぬトラブルの原因となります。また、長時間ご使用にならない場合は、プラグをコンセントから抜いておいてください。

● お手入れのご注意

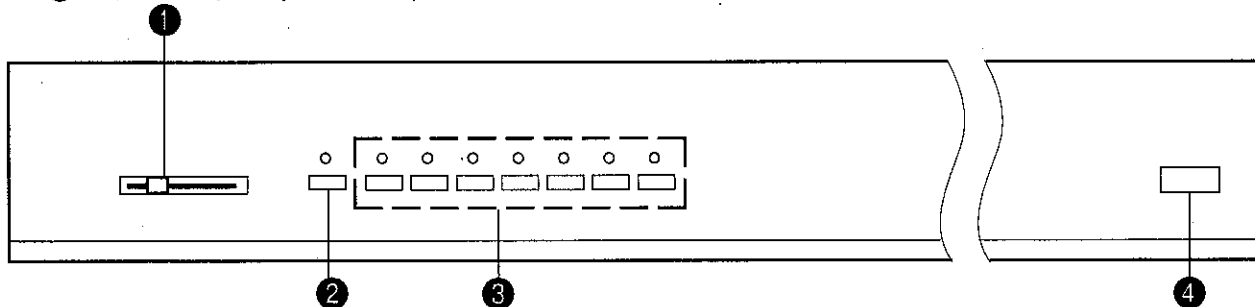
アルコールやシンナー、ベンジンなどの薬品は絶対に使わないでください。外装のお手入れは、中性洗剤の入った水を多少含ませた柔らかな布をお使いください。鍵盤のお手入れは、水を含ませた柔らかな布をお使いください。

目次

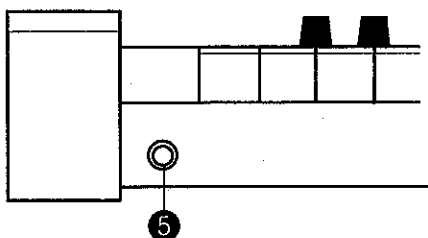
▼1	各部の名称と働き	1
▼2	演奏してみましよう	3
	1. ノーマル演奏	3
	2. デモ曲の演奏	5
▼3	その他の機能の使い方	6
	1. 設定モード	6
	2. チューニングの調整	8
	3. 調律曲線の選択	9
▼4	MIDI機能の使い方	10
	1. MIDIの考え方	10
	2. MIDIの使用例	11
	3. 本機のMIDI機能	13
	4. MIDI機能の使い方	14
	主な仕様	20

各部の名称と働き

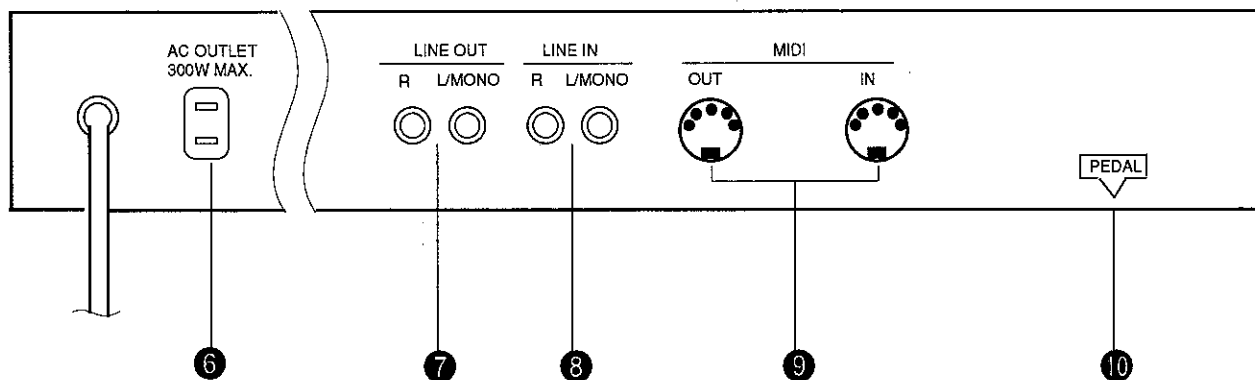
● フロントパネル



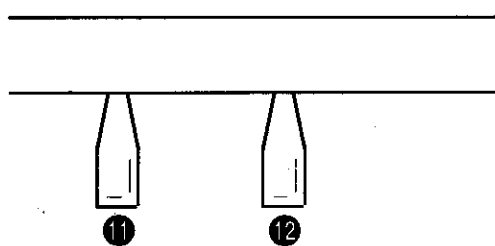
● 前面（左側）



● リアパネル



● ペダル（スタンド下部）



① VOLUME(ボリューム)

内蔵スピーカーやヘッドフォンから出力される音量を調整します。max側にいくほど音量が大きくなり、min側にいくほど音量が小さくなります。

② トランスポーズ・ボタン

トランスポーズ機能を使えば、弾き方を変えずに簡単に移調できます。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をするときなどに便利です。本機では、上下合わせて1オクターブ内の移調ができます。

③ 音色セレクト・ボタン/音色名表示

音色を選択するボタンです。演奏したい曲目などに合わせてボタンを押してください。押されたボタンの赤いランプが点灯します。

音色の切り替え方法については、3ページを参照してください。

④ POWER(電源スイッチ)

電源をオン/オフするスイッチです。ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

⑤ ヘッドフォン端子

別売のヘッドフォン(SH-5、SH-2)を接続する端子です。

⑥ AC OUTLET(アウトレット)

AC100Vの出力です。シーケンサーやキーボードなど外部機器の電源として使用できます。許容電力は300Wです。冷蔵庫、掃除機、電気コタツなど消費電力の大きな電気器具は絶対に使用しないでください。

⑦ LINE OUT(ライン出力端子)

本機の音を他の外部機器(アンプ、ステレオなど)で聴いたり、テープ・デッキなどに録音する場合に使用する出力端子です。出力レベルは、本体のボリュームで調節できます。なお、モノラルの信号はL/MONO側から出力します。

⑧ LINE IN(ライン入力端子)

他の電子楽器やカセット・デッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんので、それぞれの機器側で調節してください。なお、モノラル信号は、L/MONO側に入力してください。

⑨ MIDI(ミディ)

MIDI規格に対応している楽器などを接続するための端子です。

⑩ PEDAL(ペダル端子表示)

ダンパー・ペダル、ソフト・ペダルのプラグを接続する端子の位置を示します。

⑪ ソフト・ペダル

音色がやわらかくなり音量も小さくなります。

⑫ ダンパー・ペダル

鍵盤から手を離しても音が余韻をもって消えていくサステインがかかります。

演奏してみましょ

1. ノーマル演奏

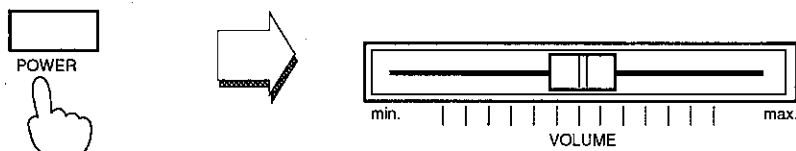
A. 基本操作

ここでは音を出すまでの基本的な手順を説明します。

ステップ1 電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

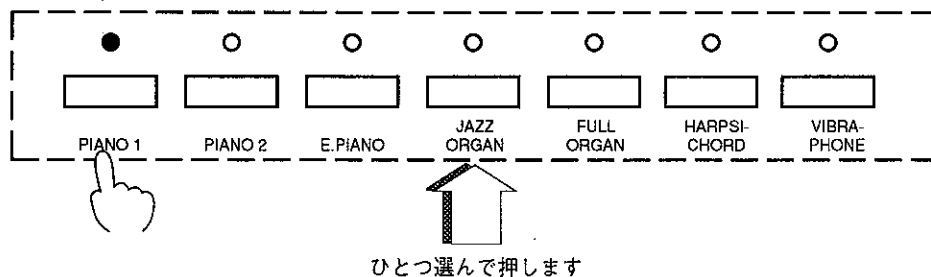
ステップ2 **POWER** スイッチをオンにします。

ステップ3 VOLUMEレバーを中央付近にセットしてください。



ステップ4 音色を選びましょう。

音色セレクト・ボタンの中から好きな音色をひとつ選んで押してください。押された音色のランプが点灯します。



★電源をオンにした時は、自動的にPIANO1の音が選択されます。

ステップ5

鍵盤を弾いてみましょう。



選んだ音色が出ます。いろいろな音色に切り替えてメロディーを弾いてみましょう。

★複数の鍵盤を同時に押した場合、8音まで同時発音します。(8音ポリフォニック)

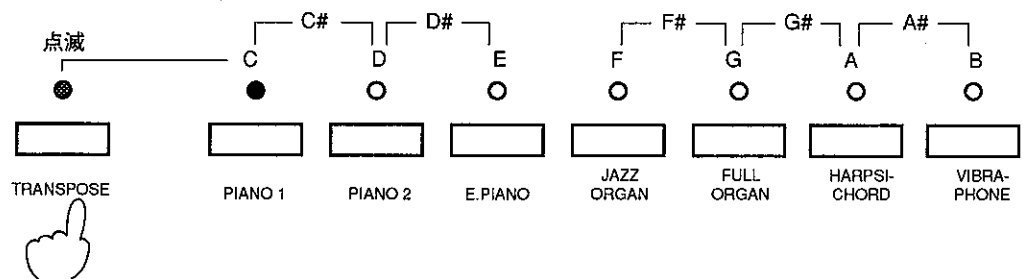
B. トランスポーズ

調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。また、譜面にシャープやフラットがたくさん付いているときにこの機能を使って簡単なキーで弾くことができます。

ステップ1

TRANSPOSE ボタンを押します。

TRANSPOSE のランプが点滅し、現在セットされている調のランプが点灯します。

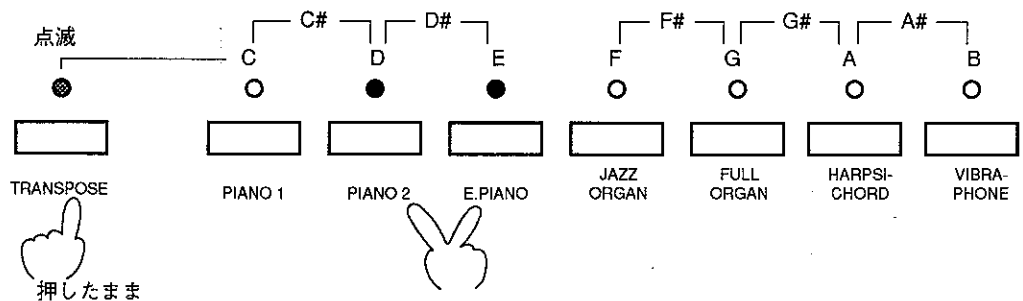


★電源オン時はハ長調(C)に設定されています。

ステップ2

TRANSPOSE を押したまま変更したい調のボタンを押します。

#の付いた中間の調に変更したいときは、その調の両わきのボタンを同時に押します。



上の例ではD#が選択されます。

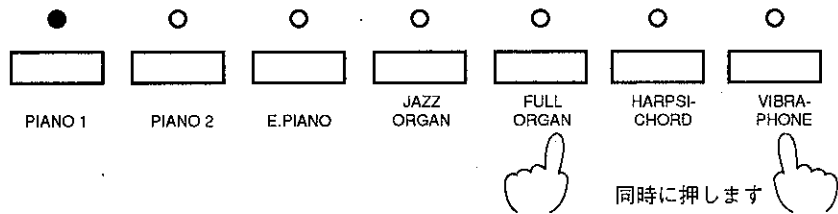
★ TRANSPOSE ボタンのランプはハ長調 (C) 以外のキーにセットされているときに点灯します。

2. デモ曲の演奏

本機にはデモ用の曲が内蔵されています。次の方法でデモ曲を楽しむことができます。

A. デモ曲の演奏

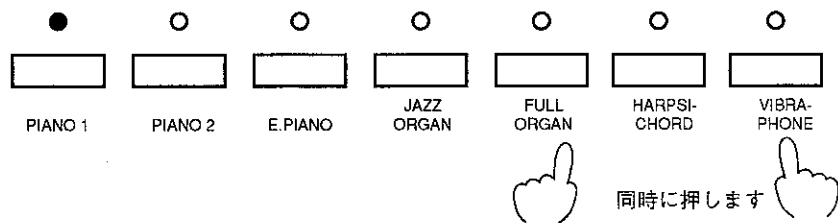
FULL ORGAN と **VIBRAPHONE** ボタンを同時に押します。



PIANO 1 のランプが点灯し、内蔵されている曲が自動演奏されます。

B. デモ曲の停止

FULL ORGAN と **VIBRAPHONE** ボタンを同時に押します。



デモ曲が止まります。

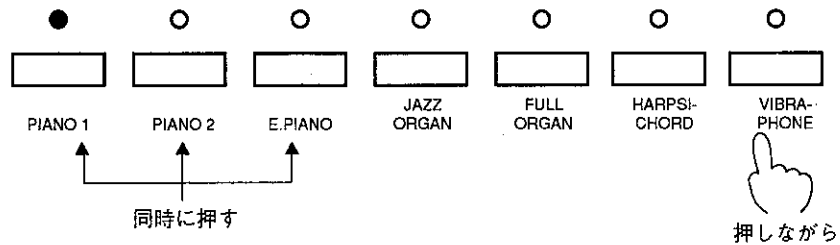
その他の機能の使い方

1. 設定モード

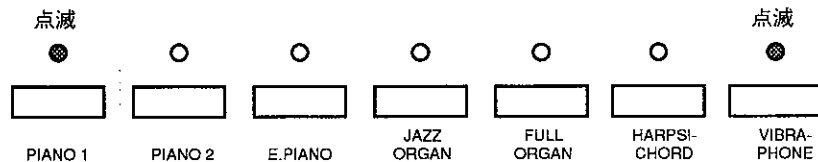
「設定モード」とは、チューニング調整、各種MIDI機能の設定を行なうモードのことです。これらの設定は電子ピアノのパネル上のボタンと鍵盤を使って行ないますので、説明をよく読んで、設定方法を理解してから行なってください。

A. 設定モードへの入り方

VIBRAPHONE ボタンを押しながら、**PIANO1**、**PIANO2**、**E.PIANO** の3個のボタンを同時に押します。(どの音色セレクトボタンが点灯していてもかまいません。)



VIBRAPHONE と PIANO1 のランプが点滅し、「設定モード」に入ったことを示します。

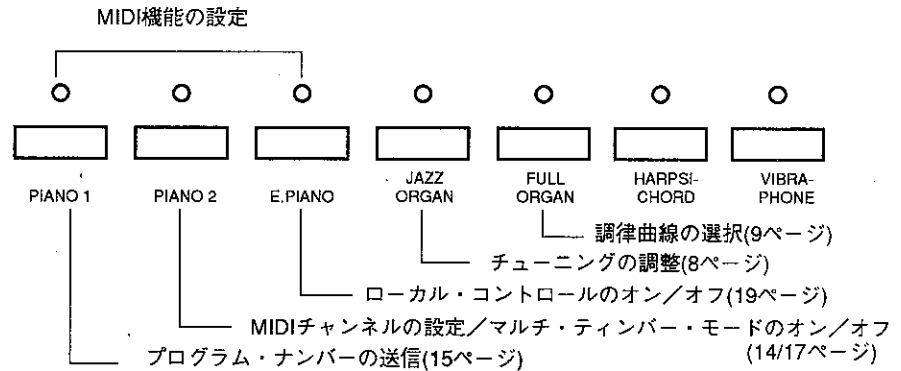


★PIANO1のランプの点滅は、後で説明するプログラム・ナンバー送信の設定モードに自動的にセットされたことを示します。

★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

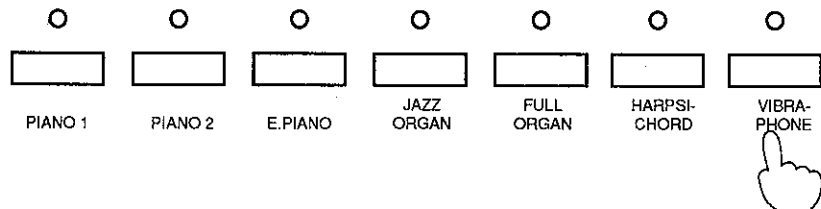
B. 各設定モードの選び方

チューニングの調整など、種々の設定モードを選ぶには設定モードに入った後で音色セレクト・ボタンを押します。各設定モードと音色セレクト・ボタンは、次のように対応しています。



C. 設定モードからの出かた

VIBRAPHONE のボタンを再度押します。
ランプの点滅が消え、「設定モード」から出ます。



「設定モード」から出ると、「設定モード」に入る前の状態に戻ります。

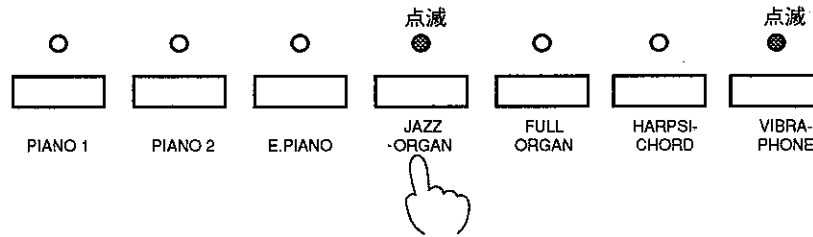
★VIBRAPHONE ボタンを押さずに他の音色セレクト・ボタンを押せば、引き続き他の設定モードに移ることができます。

2. チューニングの調整

チューニング調整は、他の楽器とピッチ(音程)を合わせるときに行ないます。

ステップ1 **VIBRAPHONE** ボタンを押しながら、**PIANO1**、**PIANO2**、**E.PIANO** の3つのボタンを同時に押し、「設定モード」に入ります。(6ページ参照)
VIBRAPHONE と **PIANO1** のランプが点滅します。

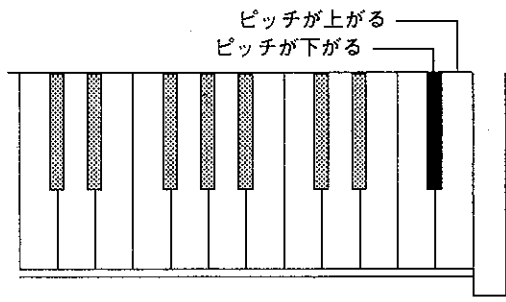
ステップ2 **JAZZ ORGAN** のボタンを押します。



PIANO1の点滅が**JAZZ ORGAN**の点滅に変わり、チューニングを調整できるモードになりました。

★この状態で鍵盤を弾くと、「設定モード」にはいる前に選ばれていた音色が鳴ります。
 チューニング調整は、この音色を使って行ないます。音色を変えたいときには、一度「設定モード」から出て(7ページ参照)音色を選びなおしてから、再度ステップ1、ステップ2の操作を行ないます。

ステップ3 チューニングを調整します。
 右端の白鍵を押すごとにピッチが少しずつ上がります。また、右端の黒鍵を押すごとにピッチが少しずつ下がります。



★チューニングできる範囲は±50セントです。(100セント=半音)。
 1回押すごとに100/64セント変化します。

ステップ4 チューニングの調整が終わったら、**VIBRAPHONE** ボタンを押し、「設定モード」から出ます。(7ページ参照)
 引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源をオンし直すとチューニングは元に戻ります。

3.調律曲線の選択

本機には、次の2種類の調律曲線が用意されています。

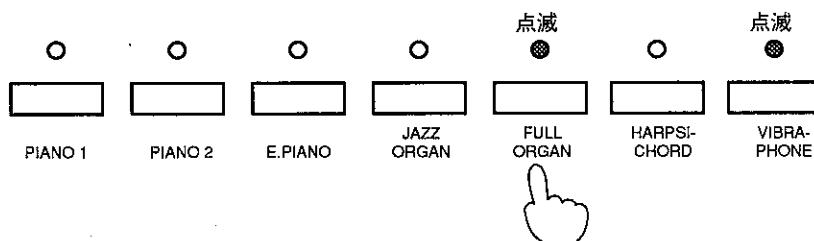
- ・ピアノ調律曲線に沿った平均律(電源オン時)
- ・ピアノ調律曲線を使用していない平均律

ステップ1

VIBRAPHONE ボタンを押しながら、**PIANO1**、**PIANO2**、**E.PIANO** の3つのボタンを同時に押し、「設定モード」に入ります。(6ページ参照)
VIBRAPHONE と **PIANO1** のランプが点滅します。

ステップ2

FULL ORGAN のボタンを押します。

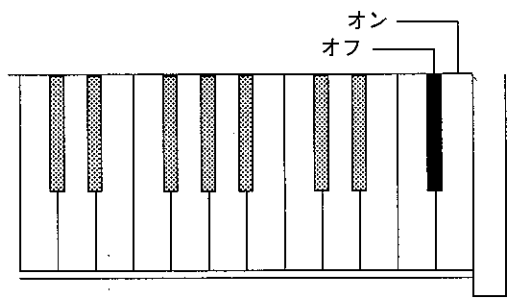


PIANO 1の点滅が**FULL ORGAN**に変わり、調律曲線の設定ができるモードになりました。

★この状態では、鍵盤を押しても音が出ません。

ステップ3

右端の黒鍵(=オフ)または、白鍵(=オン)を押します。



右端の白鍵を押すと、ピアノ調律曲線に沿った平均律になり、右端の黒鍵を押すと、平坦な平均律になります。

ステップ4

設定が終わったら、**VIBRAPHONE** ボタンを押し、「設定モード」から出ます。(7ページ参照)

引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★電源オン時はピアノ調律曲線に沿った平均律になっています。

MIDI機能の使い方

1. MIDIの考え方

MIDI機能の設定をする前に、MIDIについて簡単に説明します。

MIDI(ミディ)とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーやドラムマシンなどの電子、電気楽器間を接続するための世界統一規格です。

MIDI端子には、IN、OUT、THRUの3つの種類があります。いずれもMIDI専用ケーブルで接続します。

IN : 鍵盤情報や音色情報などを受信します。

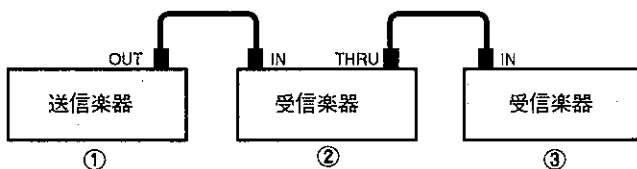
OUT : 鍵盤情報や音色情報などを送信します。

THRU : 受信した情報をそのまま他の楽器に転送します。(本機にはありません)

MIDIには、指定した楽器を演奏させるための、情報伝達方法として、チャンネルというものがあります。チャンネルには受信チャンネルと送信チャンネルの2種類があり、通常の場合、MIDI機能を持った楽器はこの両方を備えています。

受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとはある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。

例えば3台の楽器を次のように接続して演奏するとします。



(①が送信楽器②と③が受信楽器)

①の送信楽器は送信チャンネルと共に鍵盤情報等を②、③の受信楽器に送ります。②、③の受信楽器にはこの情報が送られてきますが、基本的には②、③の受信楽器の受信チャンネルと①の送

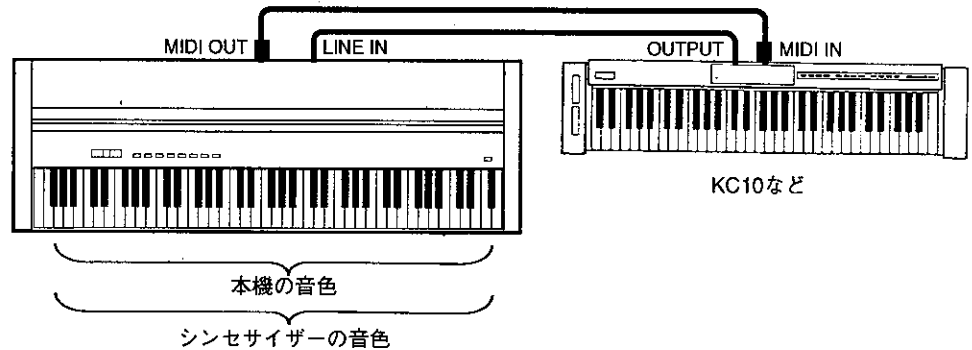
信楽器の送信チャンネルが一致していれば、送られてきた情報を受け取りますが、一致していなければ受け取らないということになります。

チャンネル番号は、送信、受信とも1~16までの番号を使用することができます。

2.MIDIの使用例

A. 他のMIDI対応キーボードとのアンサンブル

(カワイ・デジタル・シンセサイザーKC10などとの使用例)

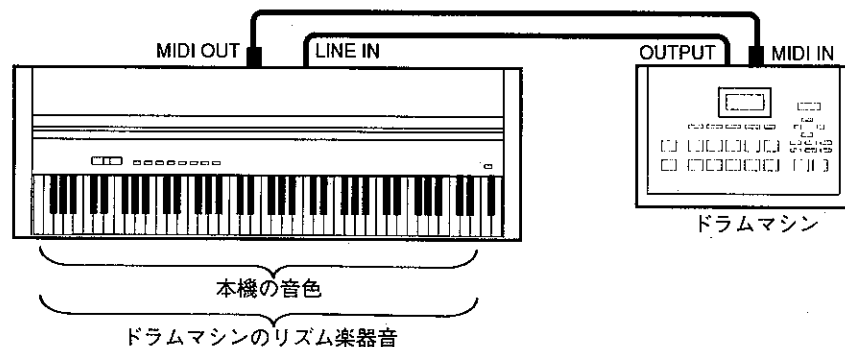


図のように接続すると、電子ピアノで弾いた情報（どの鍵盤をどの程度の強さで弾いたか）がそのままシンセサイザーに送信されます。さらにシンセサイザーのOUTPUTと本機のLINE INを接続することにより、電子ピアノの音にシンセサイザーの音を重ねて出すことができます。

音色は、別々に設定できますので、電子ピアノのピアノ音にシンセサイザーのストリングスの音を重ねて、厚みのある音にするなど、工夫しだいでいろいろなアンサンブルをつくりだすこともできます。

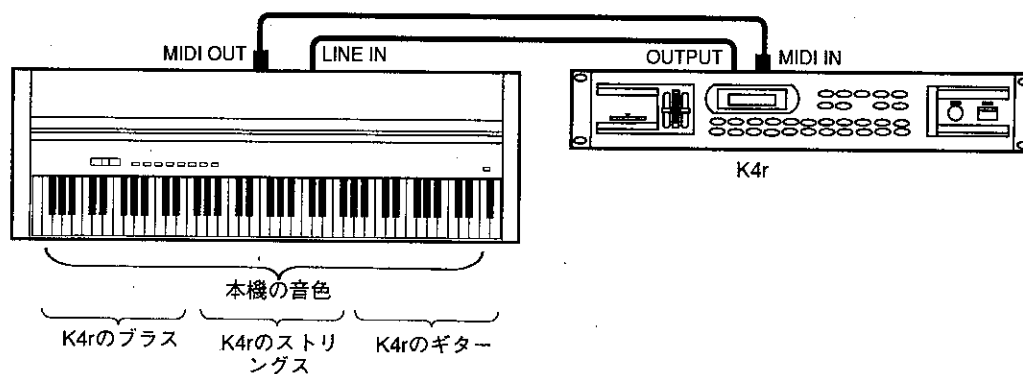
また、MIDI INとMIDI OUTの接続を逆にすればシンセサイザーの方を弾いて電子ピアノの音を出すこともできます。

B. ドラムマシンとのプレイ



図のように接続すると、ドラムマシンのリズムに合わせた演奏ができるだけでなく、電子ピアノの鍵盤をたたくことにより、ドラムマシンのリズム楽器音も鳴らすことができます。

C. シンセサイザー音源モジュールK4rとのプレイ

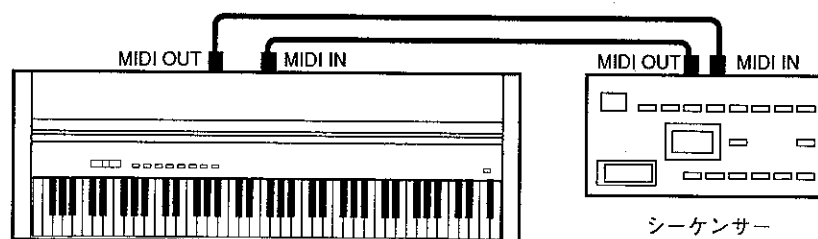


図のように接続すれば、前例Aのような音の重ね合わせのほかに、鍵盤上で多数の音色を、分割して演奏することができます。

この場合、K4rはマルチモードで3音色のマルチ音色スプリットにセッティングします。K4rの取扱いについては、K4rの取扱説明書をお読みください。

なお、カワイ音源モジュールK1rでも同様のことができます。

D. シーケンサーを使っでの録音/再生



図のように接続すれば、電子ピアノの演奏をシーケンサーに録音し、それを再生することができます。電子ピアノの練習に役立てることができます。

また、シーケンサーのMIDI OUT端子のかわりにMIX OUT端子に接続し、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（17ページ参照）、ローカルコントロールオフ（19ページ参照）にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハーブシコード、ビブラフォンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。シーケンサーの取扱いについてはシーケンサーの取扱説明書をお読みください。

3. 本機のMIDI機能

本機のMIDI機能は次のようになっています。

①鍵盤情報の送信・受信

電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

②送信・受信チャンネルの設定

送信・受信チャンネル1～16の範囲で設定することができます。(14ページ参照)

③プログラム(音色)ナンバーの送信・受信

電子ピアノとMIDIで接続したシンセサイザー等の音色(プログラムされた音色)を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。(15ページ参照)

④ペダル情報の送信・受信

ダンパーペダル、ソフト・ペダルのオン/オフ情報の送信・受信ができます。

⑤ボリューム情報の受信

シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

⑥マルチ・ティンバーの設定

電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音を出すことができます。(17ページ参照)

★本機のMIDI機能についての詳細は、「MIDIインプリメンテーションチャート」(巻末)をご覧ください。

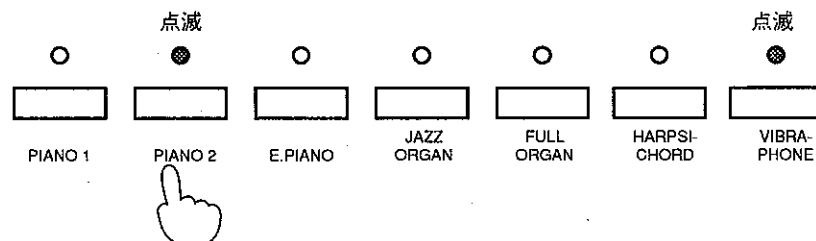
4. MIDI機能の使い方

A. MIDI送信・受信チャンネルの設定

接続されたMIDI楽器とさまざまな情報をやりとりするために楽器同志のチャンネルを合わせておく必要があります。

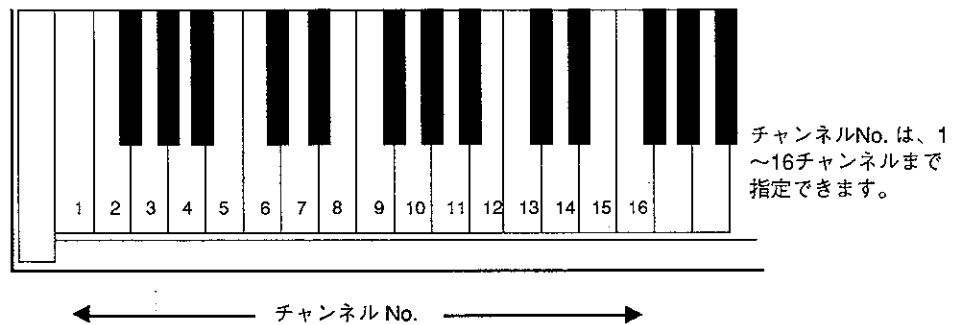
ステップ1 「設定モード」に入ります。(6ページ参照)

ステップ2 **PIANO2** のボタンを押します。
PIANO1の点滅がPIANO2の点滅に変わり、MIDIチャンネルおよびマルチ・ティンバーモード(17ページ参照)の設定モードであることを示します。



★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ3 設定したいチャンネルの鍵盤を押します。
MIDIチャンネルの設定は左端から16個の白鍵を使用します。



設定したいナンバーの鍵盤を押すと、送信チャンネル、受信チャンネルとも、そのナンバーに設定されます。

ステップ4 MIDIチャンネルの設定が終わったら、**VIBRAPHONE** ボタンを押して「設定モード」から出ます。(7ページ参照)
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

★本機は電源オン時には、1～16のすべてのチャンネルの情報を受信できる状態になっています。これをオムニ・オンと呼びます。チャンネル設定を行なうとオムニ・オフとなり、設定したチャンネルのみで受信するようになります。

B. プログラム (音色) ナンバー送信の設定

① 音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信

本機では、通常の演奏中に7個の音色セレクト・ボタンを切り替えることにより、下表のようなプログラム・ナンバーを送信できるようになっています。

音色セレクト・ボタン	プログラム・ナンバー
PIANO 1	0
PIANO 2	1
E. PIANO	2
JAZZ ORGAN	3
FULL ORGAN	4
HARPSICHORD	5
VIBRAPHONE	6

この音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信は、次の方法により送信するかしないかを設定することができます。

ステップ 1

設定モードに入ります。(6ページ参照)

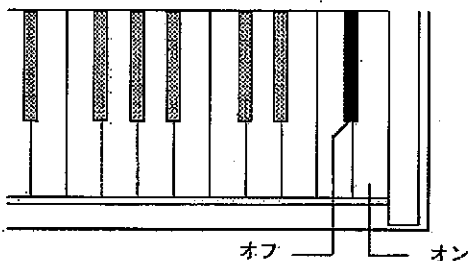
VIBRAPHONE とPIANO 1のランプが点滅します。

PIANO 1の点滅はプログラム・ナンバー送信の設定モードを示しますので、そのまま次のステップに進みます。

★この状態では鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ 2

右端の黒鍵 (=オフ) または、白鍵 (=オン) を押します。



右端の黒鍵を押すと、音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信をしません。逆に右端の白鍵を押すと送信します。

ステップ 3

設定が終わったら、**VIBRAPHONE** ボタンを押し、「設定モード」から出ます。

引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

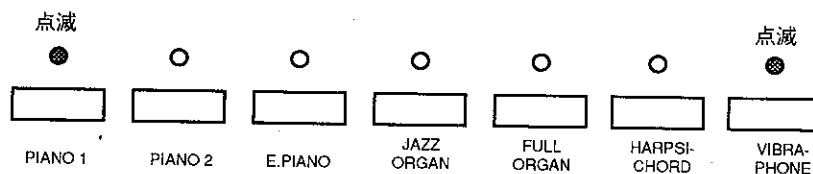
★電源オン時は、音色セレクト・ボタンによるプログラム・ナンバーの送信は自動的にオンにセットされます。

② 黒鍵を使用した送信

本機では、音色セレクト・ボタンによる送信の他に、黒鍵を使って0～127までのプログラム・ナンバーを送信することができます。

ステップ1

「設定モード」に入ります。(6ページ参照)



★その他の設定モード (VIBRAPHONEと他のランプが点滅) に続いて設定する場合は、PIANO 1のボタンを押してください。

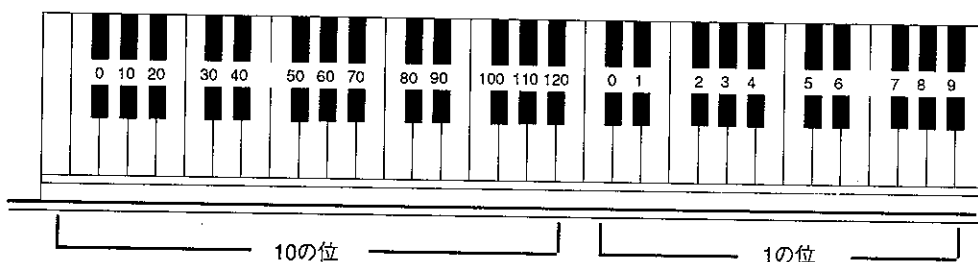
ステップ2

鍵盤を押してプログラム・ナンバーを送信します。

プログラム・ナンバーの送信には、黒鍵を使用します。左端から13個の黒鍵で10の位 (0～120)、次の10個で1の位 (0～9) をセットできます。10の位を押した後1の位を押すことにより、プログラム・ナンバーを送信します。

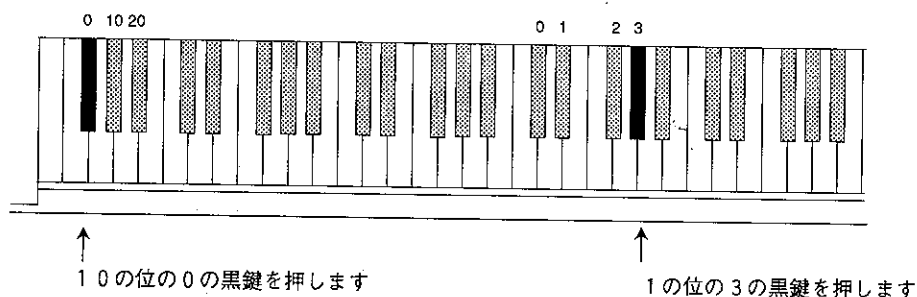
★10の位が共通なプログラム・ナンバーを送信する場合は、10の位を押し直す必要は無く、1の位を押し直すだけでプログラム・ナンバーを送信することができます。

★設定モードに入ったときは、10の位は0にセットされています。

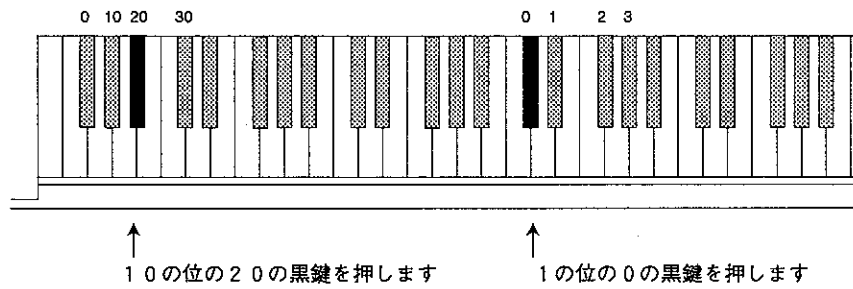


【プログラム・ナンバー送信の例】

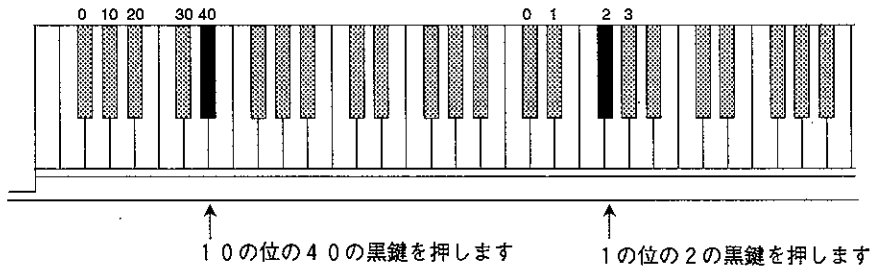
●プログラム No. : 3



●プログラム No. :2 0



●プログラム No. :4 2



ステップ 3

VIBRAPHONE ボタンを押し、「設定モード」から出ます。(7ページ参照)引き続き、他の設定モードへ移ることもできます。

★他の MIDI 楽器からプログラム・ナンバーを受信したときには、プログラム・ナンバー送信のオン/オフに関係無く、受信したプログラム・ナンバーに対応して15ページの表の音色セレクト・ボタンが点灯します。

C. マルチ・ティンバー・モードのオン/オフの設定

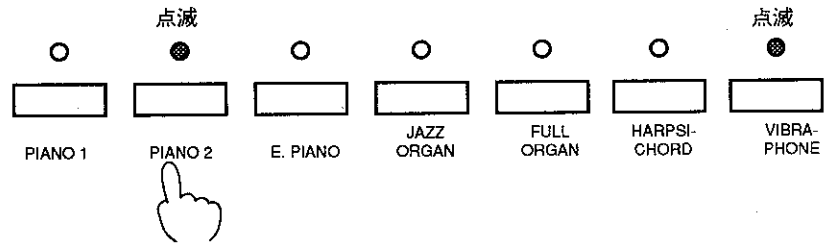
通常は、前述の方法で設定された MIDI チャンネル (1~16のどれか1つ) で情報を送信・受信しますが、マルチ・ティンバー・モードをオンにすることにより、複数の MIDI チャンネルを受信して各々のチャンネルに対応した異なる音色を同時に出すことができます。
この機能により、外部にシーケンサーを使って、本機1台で「複数の音色 (マルチ・ティンバー)」によるアンサンブル演奏が可能です。

ステップ 1

「設定モード」に入ります。(6ページ参照)

ステップ 2

PIANO 2 のボタンを押します。
PIANO 1の点滅がPIANO 2の点滅に変わり、マルチ・ティンバー・モードおよび MIDI チャンネル (14ページ参照) の設定モードであることを示します。

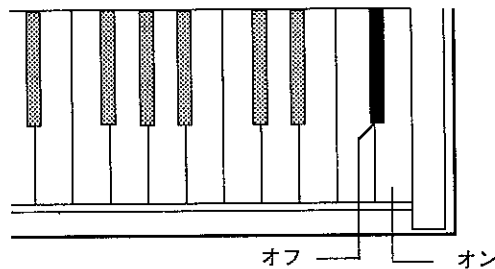


★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ3

右端の白鍵 (=オン) または、黒鍵 (=オフ) を押します。

右端の白鍵を押すと、マルチ・ティンバー・モードがオン、黒鍵を押すとオフになります。



マルチ・ティンバー・モードがオフのときに、MIDI 情報を受信すると、そのとき選ばれていた音色セレクト・ボタンの音色が鳴ります。マルチ・ティンバー・モードがオンのときは、どの音色セレクト・ボタンが選ばれていても受信した MIDI チャンネルに対応して下表の音色が鳴ります。

チャンネル	音色
1	PIANO 1
2	PIANO 2
3	E. PIANO
4	JAZZ ORGAN
5	FULL ORGAN
6	HARPSICHORD
7	VIBRAPHONE

★電源オン時、マルチ・ティンバー・モードはオフに設定されます。

ステップ4

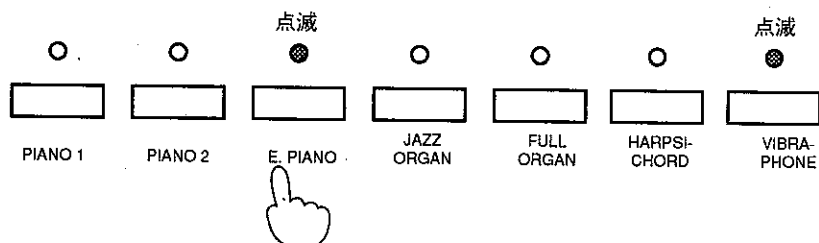
マルチ・ティンバー・モードの設定が終わったら、**VIBRAPHONE** のボタンを押して「設定モード」から出ます。(7ページ参照)
引き続き、他の設定モードに移ることもできます。

D. ローカル・コントロールのオン/オフの設定

本体の鍵盤を弾いて音を出すか、出さないかを設定するモードです。

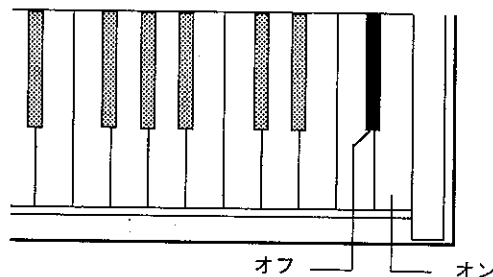
ローカル・コントロールがオンのときは、通常どおり鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。一方、ローカル・コントロールがオフのときは、鍵盤を弾いても音は鳴らずにMIDI情報を受信したときのみ音が鳴ります。

ステップ1 「設定モード」(6ページ参照)に入り、マルチ・ティンバー・モードをオンにした後、**E. PIANO**のボタンを押します。
PIANO 2の点滅がE. PIANOの点滅に変わります。



★この状態では、鍵盤を押しても音は出ません。

ステップ2 右端の白鍵(=オン)または、黒鍵(=オフ)を押します。
右端の白鍵を押すと、ローカル・コントロールがオン、黒鍵を押すとオフになります。



ステップ3 ローカル・コントロール・オン/オフの設定が終わったら、**VIBRAPHONE**のボタンを押して「設定モード」から出ます。(7ページ参照)
引き続き、他の設定モードに移ることもできます

■主な仕様

鍵盤	76鍵
発音数	8
音色	ピアノ1・2、エレクトリック・ピアノ、ジャズ・オルガン、フル・オルガン、ハーブシコード、ビブラフォン
その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューン、
ペダル	ダンパー、ソフト
外部端子	ヘッドフォン、ペダル、AC OUTLET、MIDI (IN、OUT) LINE IN (L/MONO、R)、LINE OUT (L/MONO、R)
出力	10W x 2
スピーカー	16cm x 2
キーカバー	ピボット式
定格電圧	AC100V、50/60Hz
消費電力	34W
仕上げ	コスモブラック
寸法 (W x D x H)cm	122 x 45 x 78 (キーカバーを開けた時97、スタンド含む)
重量	37.7Kg (スタンド含む)
オプション	椅子、ヘッドフォン

[KAWAI DIGITAL PIANO]

Date: Apr. 1991
Version: 1.0

Model PW149 MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション....		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	3 X *****	1 1, 3** X	**電源オン時オムニ・オン。 MIDIチャンネル設定 操作によりオムニ・オフ。
ノート ナンバー	音域	28-103* *****	0-127 15-119	
ペロシティー	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH V=1-127 X 9nH v=0	○ X	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	X X	X X	
ピッチ・ベンダー		X	X	
コントロール チェンジ	7 64 67	X ○ (右ペダル) ○ (左ペダル)	○ ○ ○	ボリューム ダンパー ソフトペダル
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ (0-127) *****	○ (0-127) 0-6	左記以外は0
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	:ソングポジション	X	X	
	:ソングセレクト	X	X	
	:チューン	X	X	
リアル タイム	:クロック	X	X	
	:コマンド	X	X	
その他	:ローカル ON/OFF	X	○	
	:オール・ノート・オフ	○	○	
	:アクティブセンシング	○	○	
	:リセット	X	X	
備考	* 22-108 トランスポートズによって変化する。			

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
X: なし

KAWAI

本社 〒430 静岡県浜松市寺島町200番地 TEL. 053-457-1277